

2023年



4月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 佐竹康行
〒461-0004
名古屋市中区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円

被災69年
2023年3・1ビキニデー集会
4年ぶりの開催、成功!!

第五福竜丸がビキニ環礁沖でのアメリカの水爆実験で被災してから69年。核被害を再びつくりたくないことを、ともに決意する場として、2月27日に国際交流会議、28日に日本原水協全国集会、3月1日に3・1ビキニデー集会在静岡県のグランシップ静岡にて、現地とオンラインの併用で開催されました。

県代表団、国際交流会議で発言
日本原水協集会では、**全国との交流**

27日の国際交流会議では、米ニューヨーク州ピースアクションのミカエラ・チェルキエスさんがビデオで、米国での核兵器廃絶に向けた草の根運動を紹介。フランス地政学研究所学生のレミー・コロさんは、核軍拡競争は今すぐにやめなければならぬと語りました。マーシャル諸島共和国元上院議員のアバッカ・アンジャイン・マディソンさんは、67回の核実験により、いまだに続く放射線被害の実態を告発しました。韓国・韓神大学統一平和研究院先任研究員のイ・ジュンギュさんは、朝鮮半島、北東アジアにおける軍事挑発に反対し、周辺の軍事化に抵抗の声を高める



て参加しました。オンライン参加はのべ150人以上です。

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

県内83,612筆

2023年3月10日 現在

べきだと語りました。日本原水協からは、土田弥生国際部長が発言し、会場からの発言として大村義則県原水協代表理事が発言しました。

28日の日本原水協全国集会では、海外代表の発言とともに、愛知県蒲郡市生まれの芥川賞作家・平野啓一郎さんがあいさつされました。核兵器への対応の考え方について「現実主義」を求める声に対して、それは「現状追認主義」にすぎないと、きつぱりと断罪しました。

また、ビキニ事件後、核廃絶署名を全国に広げた運動発祥の地である杉並区の岸本聡子区長があいさつ。署名活動の歴史を振り返り、非核自治体の意義と新たな公共の役割が訴えられました。韓国の若い活動家や東京学生平和ゼミナールなど、若い世代の活躍も目立った集会となりました。

ました。

全体集会後、分科会が行われ、第3分科会「被爆者援護連帯」核兵器禁止条約を力に」には、愛友会から5人が参加し、「黒い雨」問題と被爆二世問題について全国の参加者と交流しました。金本弘愛友会理事長が、「黒い雨」地域の問題で質問、大村義則愛友会副理事長が被爆二世運動について、日本被団協の被爆二世委員会の活動を紹介しながら発言しました。

3・1ビキニデー集会
1500人以上が参加

3月1日、焼津駅から弘徳院までの墓参平和行進が行われました。4年ぶりの行進となりました。

参加者は久保山さんの好きだったバラの花を手にはためかせながら行進を行いました。

2023年3・1ビキニデー集会には1500人以上が参加し、ロシアのウクライナから直ちに撤退せよ、日本政府は「安保3文書」の撤回を、



禁止条約の署名・批准を求めるなどの集会アピールを拍手で確認しました。

主催者あいさつは、実行委員長である静岡県原水爆被害者の会会長の石原洋輔氏から、来賓として、焼津市長の中野弘道氏と、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の濱住治郎氏から、あいさつがありました。主催者報告は、原水爆禁止世界大会・運営委員会共同代表の野口邦和氏が行いました。野口氏は、1954年3月1日水爆実験当時とその後のたたかいは振り返りながら、今日の焦点として、「日本政府に禁止条約の署名・批准を求める署名」を強調し、

政府が核の傘から脱却し、禁止条約に参加するよう迫りました。

メイン企画では、第五福竜丸の元乗組員である大石又七(2021年3月7日逝去)氏の義妹河村恵子さんがあいさつ。河村氏は、大石又七さん

の人生、生き様を語りながら、「本日、(大石又七さんの)遺志を引き継ぐ決意する」と語りました。高知のビキニ被災船員訴訟の原告団長である下本節子さんと南拓人弁護士から訴えがあり、下本さんは昨年1月に国連本部で「68年たつてもなお、被爆者として認められない非道さ、無念さ」を語ったことを伝えながら、支援をよびかけました。環境活動家・プロダイバーの武本匡弘さんは、マーシャル諸島から見た激変した様子、サンゴ礁の多くが死に、放射能を含んだ土砂が蓄積されている「ユニットドーム」などを紹介し、気候危機と平和の危機について語りました。その後、海外代表と国内代表が、禁止条約をめぐる発言、交流を行いました。



2023年3・1ビキニデー日本原水協全国集会

2023あいち平和行進 コース日程

- 5/31(水) 静岡からの引継ぎ～桜丘高校
 - 6/ 1(木) 豊橋市～蒲郡市 豊田市内
 - 2(金) 岡崎市～安城市
 - 3(土) 知立市～刈谷市
 - 4(日) 名古屋集中行進・ピースアクション
 - 5(月) 名古屋市役所～清須市～北名古屋市
大治町・甚目寺町
 - 6(火) 瀬戸市～尾張旭市～守山区
日進市 長久手市
 - 7(水) 津島市～愛西市～稲沢市
蟹江町・弥富市・飛島村
 - 8(木) 知多地域
 - 9(金) 岩倉市～一宮市～江南市 大口町
 - 10(土) 小牧市・豊山町～春日井市
 - 11(日) 扶桑町～犬山市～岐阜への引継ぎ
- ※今後、変更となる場合もあります

2023年平和行進、準備本格化 基本は歩き、つなぐ行進をよびかけ

核兵器廃絶と原水爆禁止世界大会の成功を訴えながら、全国から被爆地・広島・長崎をめざして歩く平和行進が今年も取り組まれます。5月初めに東京を出発し、広島をめざすコースは、5月31日に静岡から愛知に入り、6月11日に愛知から岐阜へと続いていきます。この12日間、愛知県内を行進する「あいち平和行進」が行われます。

今年のあいち平和行進は「歩く」ことを基本に行進します。この間の経験「短区間・短距離・少人数でも『歩く』平和行進」を、今年の平和行進の具体化に活かしていきます。6月4日の名古屋市内集中行進は、各地域

聞き撮りプロジェクトを再開 広島・長崎の被爆者から体験ききとる

3月4日と26日に民主会館で被爆体験聞き撮りプロジェクト(ききプロ)を行いました。

◆4日に体験を話していただいたのは、名古屋市在住の磯貝富美子さんです。



磯貝さんは4歳の時、長崎で爆心地から3・6kmの場所

で被爆しました。防空壕から外に出た時に原爆が投下され、爆風で飛ばされた瓦が頭に当たりました。近くの病院に駆け込み、助かりましたが頭を何針も縫う大怪我だったそうです。4歳年上の兄も外に出ていて、母が探して連れ帰った兄の姿を見たときは「助からない」と思ったと話してくれました。

木下さんは被爆当時5歳、広島で爆心地から1・8kmの家に父母と兄、妹の5人で住んでいました。8月6日の朝、家の中庭の縁側で兄と遊んでいて空を見上げたらB29が3、4機飛んでいるのを見た次の瞬間に爆風に襲われました。縁側にいたので光線、熱線は浴びなかったが、飛んできた柱で頭を打ったそうです。家の中にいた母親は、割れたガラスが背中

に刺さりましたが、何とか家の下から這い出してこられたと話されました。その後、川沿いに南下

し、江波の三菱造船所の方まで避難しました。大きく炎が上がる中、川にはやけどを負い水を求める人、川に浮かんでいて人を見たそうです。4、5日後に親戚が迎えに来て三好に避難しました。けがは治療できたそうですが、家族全員毛髪が抜ける被爆の急性症状が現れたそうです。3歳だった妹さんは1か月後に亡くなったと語りました。



→避難した道のりを地図でたどる木下さん

続けることが大きな意義 被爆者行脚まとめ報告会

3月18日、北区生涯学習センターにて「2022年度被爆者行脚のまとめ報告会」が行われ、被爆者、支援者17名が参加しました。

はじめに、愛知県への行脚の様子と「原爆、忘れまじ」の復刻版発行を報道したニュース映像を視聴し、2022年度被爆者行脚について、コロナ禍で一部の自治体に絞っていた懇談を2022年度は全自治体に要請して行ったこと、「原爆、忘れまじ」の復刻版を贈呈し、全ての自治体で図書館を中心

に配置されることを了解してもらったこと、みよし市では図書館に平和コーナーがあり、そこに置くことを市長自ら紹介してくれるなど好意的に受け止められたことが報告されました。

最後に、来年度の行脚についても被爆者と支援者が共に支えながら実施していこうと決意し、報告会は終了しました。



↑活発な意見交換を行いました

2023年 3・1ビキニデー集会の記録



- 4月3日発行 B5版76ページ(予定)
- 頒価:700円(送料実費)
- 注:この記録集は3月1日のビキニデー集会の記録です
- 発行:原水爆禁止世界大会実行委員会、3・1ビキニデー静岡県実行委員会
- ※注文は県原水協まで